

会報

No. 35

平成7('95)年1月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL(075)771-0069

わたしと図書館

裏千家 家元 千

宗 室



今では、図書館は建て直されたり、新しく出来たりして、その機能を十分に果たせるようになった。これは人々の知識を仕入れる場として、現代生活には欠かせないものであるだけに、喜ばしいことである。

私の学生時代は不幸にして戦争で明け暮れていたもので、図書館へ行つて、勉強出来たのは、中学生の高校年と大学予科時代の限られたものであった。小学校は附属（教育大の前身師範学校）だったので学校の図書館には読みたい本が随分あり、休憩時間や下校以降、友人達と好きな本を借り出して読んだものである。

茶家なので古くから伝わっている歴代家元の記録や茶会記、又、日誌それに茶に関する古文書等が随分あった。父はそれを文庫、即ち図書館的なものをこしらえて収納したいと思っていたようである。ということは、土地の余裕のある場所を選んで、設計といっても自らの筆で書いた絵図面のようなものが遺っている。私はそれを引継いだ思いで、新しく建てることになった裏千家センターの中に今日庵文庫と茶道資料館を入れることにした。そして、現在広く用いられているセンター内の文庫や資料

館はそれぞれの機能を十分に果たしてくれている。これで父が思い遺した図書館構想が見事に実現したのであった。文庫には茶道文化関係の書物、古いのから新刊迄加えて、実に約三万冊、中には貴重な古い本も相当ある。他に文化関係のものが約一万冊が収納されている。近く五万冊位になるはずであるが、勿論一般にも公開しているし、文庫には閲覧室もあり、研究家の人々は大層便利よく勉強してもらっている。図書館は、確かに人格を高めるところだが、単に本を読んで勉強したつもりでいても読む本を選ぶことによって与える影響は大きい。学生時代、独乙語の教師に、何でも良いから原書を読みなさいとすすめられた。しかし、どんな本を読めば、とその選択に迷ったことがある。英語の原書もそうであったが、とにかく大学の図書館で原書と辞書とかわるがわる読んでいる間に訳が分からなくなったなど、思い出は多い。

ある日、仲の良い友人と共に図書館で何か読もうかと申し合わせて大学図書館へ行こうと校門を出た。そこでばったりと悪友に出会った。「これから図書館へ」と言うのと「何

だ、何だ図書館へ行くより街へ出て映画に行こう」と誘われ、遂に図書館での静かな憩いの場は実現出来なかった。街で観た映画は「舞踏会の手帖」であったが、図書館で本を読むより感激ですっかり映画に魅了された。それから映画好きとなり、私はあまり図書館通いをしなくなった。昭和十八年十二月海軍へ入隊。昭和十九年二月に飛行予備学生に採用され、徳島海軍航空隊へ飛行訓練を受けるために赴任、そこで出会った内海倫大尉で主計長（後の人事院総裁）は初級士官心得の講座で「貴官等は学生出身である、よって何時も学を忘れるな。そのために必要であるなら本を読むこと。私が責任をもって読みたい本を揃えるから遠慮なく申し出よ。そして決して死をあせるなよ。」誠に温情あふる話をされた。一同、大感激したものである。戦争のど真中で特攻訓練を受ける私達をあくまで、大学出身、しかも海軍士官としての襟度をもたすような指導は忘れ難いものであった。図書館は海軍にはなかったが、内海主計長の取り計らいで私達のクラブには読みたい懐かしい本が取り揃えてあった。いわば、初級士官が学生時代にかえったようなはずむ心であれこれと本を読めたことは、何よりであった。

今でも図書館へ寸暇を見つけて行ってみたいと思っている。

図書館利用のさらなる発展をめざして―第三回京都図書館大会―

師走とはいえ陽気の残る十二月一日、第三回京都図書館大会（主催・日図協／京都連協 後援・京都府教委／京都市教委）が同志社大学において開催されました。

「図書館利用のさらなる発展をめざして」の魅力ある図書館づくりのために「」のテーマの下に行われた基調講演、府内公共図書館の現状報告、大学図書館、学校図書館からの魅力ある活動報告に館種を越えた図書館職員、関係者等八十名が集い熱気の半日を過ごしました。

◎基調講演

「図書館利用のさらなる発展をめざして」

日本図書館協会事務局長

酒川 玲子

一九七〇年代からの四半世紀に公共図書館は飛躍的に発展したが、町村の設置率が二十三％という現状。機械化が進行する中、今一度「中小レポート」を検証するべき時期。大学においてことさらに図書館利用者教育を行わねばならないということは学校図書館が放置されていることに係る。公共図書館が本格的に資料提供するには大学図書館の資料が必要となる。学校図書館の充実と地域単位の館種を越えたネットワークによる資料の共有が図書館サービスの拡大と深化に欠かせないことを示している。

公共図書館では市町村図書館の資料の廃棄への対策が緊急の課題である。府県域における共同保存を含め

将来計画の構築についての共同作業が必要である。図書館側から行政に対して図書館を認識させる日常的PRも必要等々。図書館の置かれている状況と図書館人として今日あるべき気構えを簡潔明瞭に話された。

◎報告 1

「府内公共図書館の利用状況と今後の課題」

京都府図書館等連絡協議会理事 村上 敏明（京都市向島図書館）

府下の公共図書館の活動は、貸出冊数全国第六位（府民一人当たり三・六冊）とこの面では活発。又府民の書籍購入率などをも読み読書へのニーズ高い。しかし職員一人当たりの貸出冊数が東京の一・八倍になるという中で日常業務は貸出に追われているのが実情。一方では図書館費・蔵書数が全国三十三位。こういった中でサービスの質（選書、予約・レファレンスサービス、児童・障害者サービス）はこれであるのか等、様々な課題解決の取組に向けて、図書館職員が専門的力を深め、相互に交流し、議論し、必要を展開された。



◎報告 2

「地域サービス「成安ブックス宝島」について」

成安造形短期大学図書館課長 秀平 昌子

造形専門の大学の図書館だからこそ所蔵する絵本等のビジュアル資料を「成安ブックス宝島」と名称して地域文庫・家庭文庫に団体貸出を行っている。機関誌も毎月出して新着案内等を文庫に通信している。

現在「成安ブックス宝島」を利用するために生まれた十文庫を含め二十文庫が利用者となっている。貸出冊数は一回百冊まで可能で、平成五年度は三十七回一、〇八一冊の貸出があった。

図書館サイドで自主的に開始した事業であるが、実績に伴い大学当局の予算措置もなされている。大学図書館の地域開放の姿の一つとしての事例報告でした。

◎報告 3

「図書館で学習する―動物の飼育に知識を得る―」

聖母学院小学校教諭 星宮 一子

本校の図書室には司書職員二名と補助員二名が置かれ、子供達は一年生の二学期に図書館の利用指導、読書指導を受け、読む喜びを味わう本の利用に親しんできている。

二年生を担任する中で、生活科の授業に図書館を活用することを通して、疑問や探求心を解決できる所としての図書館の利用を子供達が体得してゆく姿を感動的に話されました。子供の読書離れが言われ、学校図

書館の充実への市民レベルの要求が顕在する今日状況の中で非常にタイムリーな報告でした。

この後、発表者への質問や感想、又講演者へ助言を仰ぐ発言（司書教諭と学校司書の相違について、「司書」の専門性について等）、学校図書館充実行動の呼び掛け、京都図書館協会の発足の必要を求める意見等活発な意見交換が一時近く行われました。

参加者感想二題

◎昨年に引き続き、今年も京都図書館大会に参加させていただいた。取り扱う資料も利用者も限定された大学の専門図書館に比べると、すなわち、公共図書館や学校図書館の世界を忘れがちになる。だから、この大会のレポートの主題が仮りに自分の関心から遠いことでも、できるだけ参加したいと思っている。事実、学校図書館からの、図書室を授業の場にした短大の試みも大変刺激的で、話を聞きながら多くのことを考えさせられた。なにより、館種を越えた図書館職員の集まりのなかで、直接に意見を交換しあえる唯一の場であるこの京都図書館大会が更に発展するように願っている。（京大文学部 図書館 篠原俊夫）

◎私なりに感じたことを思いのままに書かせていただきたいと思います。酒川玲子氏の話からサービス面にかかる六点をあげさせていただきま

す。①読む気を起こさせる利用手引

きの必要 ②カウンターでの利用者との会話の必要 ③職員は自館蔵書を把握すること ④コンピュータの単純検索だけの資料提供に終わらないこと ⑤図書館はもっと外に働きかけを行うべき ⑥単館運営から広域利用、相互貸借へ、府県の図書館が核となること。どれも今後の図書館運営に活かさなければならぬ点である。しかしこうした事柄をどれだけの図書館が、又どれだけの職員が実行しているか。職員の力量や資質にかかわってくる面が多分にあると思います。

成安造形短期大学図書館と聖母学院小学校からの報告には深く感銘しました。

聖母学院小学校のように小学校ではぜひとも学校図書館の利用を授業の一環として取り入れ、読む学習・調べる学習を行って欲しいと思う。公共図書館、大学図書館、学校図書館それぞれ互いにカバールできるような体制を導き作りあげていくこと、それが今後の館種を越えた図書館の利用発展へつながっていくと考えられ、早い時期に実現できるよう邁進していきましよう。

(加茂町立図書館 大西寛典)

シンポジウム

「図書館 過去から未来へ」

国会図書館関西館の建設にゴーサインが出されましたが、去る十月七日、学研都市の文化交流施設「けいはんなプラザ」において「図書館 過去から未来へ」「けいはんな」

における文化・学術研究情報拠点の形成に向けて」と題するシンポジウムが開催されました。内容は①社会的、歴史的、文化的視点から、社会システムとしての図書館の将来を展望する、②二十一世紀における国立国会図書館の役割を考える、③国境を越えた図書館サービスを提供する国際ネットワーク・プロジェクトの構築を展望する、の三つのコンセプトで構成するもので、記念講演、パネルディスカッション、そして電子図書館実験システムのデモンストラレーションが行われました。参加者は八五〇名に及んだということです。二人の方から感想をおよせいただきました。

○私の勤務する木津町の隣町で、国立国会図書館が後援するシンポジウムがあるということで参加しました。第一部として「文化としての図書館」について青木保先生による講演がありました。これからの図書館は現代人にとってのオアシスになるような人間に優しい組織と施設が必要である、高齡化社会は高知識社会でもあるので、生涯学習の拠点として図書館の果たす役割は大きく、特にアジアのハブ図書館となるような役割が求められているということです。

第二部のパネルディスカッションはパネリストの先生方の本との出会い、思い出等のお話で親しみ易い内容でした。

又、国立国会図書館関西館についてのお話もあり、電子情報による「発信型」図書館を目指すというこ

とです。

関西館が文献情報基地として発展していくと同時に、私共の図書館が地元の公共図書館として、共に発展していくことを期待したいと思っています。

第三部では、「電子図書館」のシステムのデモンストラレーションがあり二十一世紀の図書館の未来像を見せていただき、図書館がますます発展していくであろうことを実感することができました。

(木津町中央図書館 山本 仁美)

○今回の集会は第二国立国会図書館の建設に因んで企画されたものと思います。第一・二部の記念講演やパネルディスカッションでは、各人各様に図書館像を描き、図書館に期待を寄せ、わが国の図書館政策の後進性、特に関西と東京との情報の格差を指摘するなど図書館関係で働く者として多角的に話が聞けてそれなりにおもしろく注目すべき内容でした。又最後の電子図書館実験システム紹介も目新しく興味あるデモンストラレーションでした。

ただ、各界第一人者を揃え、焦点がない、お祭り集会の印象はぬぐえません。

第二国立国会図書館については第二部のパネラーとして参加した国会図書館副館長が一部そのことに触れるに留まりました。関西での期待、構想等が、現在活動している施設との関係でもっとリアルな提案がされるか、または研究報告されることなど期待していたのですが。

(京都府立総合資料館 川野 並子)

ニュース・News・ニュース

図書館情報学習会について

平成五年十月より、館種を越えた有志による図書館情報学習会を始めました。現在、毎月第三木曜日、京都府立医科大学附属図書館で行っています。毎回発表者とテーマを設け、ゼミ形式で、前半に発表者の話を聞き、後半に質疑応答や意見交換を行っています。

発表の自身は、学術論文にまとめられるようなものや基礎的な学習報告など発表者の自由で、現場報告、図書の紹介などでも構いません。また、参加の形態も自由で、事前に発表者とテーマを決め計画を立てているので、興味のある月の学習会にのみ参加してもらっています。

これまでの発表は、保存の問題、複写サービスや著作権、大学図書館の一般公開、海外の図書館の見学報告、雑誌論文の投稿規定についてなど、館種を問わず幅広く行ってきました。自分の関心のあるテーマについて考えたり、他館の実情を知ったり、お互いに刺激を受けることもあります。

今後は、インターネットについて、公共図書館についてなどの発表を予定しています。どなたでも参加できますので、興味のある方は第三木曜日、六時過ぎに医大図書館の事務室までお越し下さい。

(間合わせ 京都府立医科大学附属図書館 若林)

新加盟館紹介

山城町図書館

—平成八年には待望の
図書館も実現—

京都府図書館等連絡協議会に、平成六年度から加盟させていただきました山城町図書館です。

山城町図書館は、平成六年一月に新たにオープンした山城町立なでしこ児童館内に設けられ、位置的にもJR奈良線上狛駅から徒歩約五分という交通至便なところで、小・中学校にも近く児童・生徒にも大変喜ばれています。

図書室の面積は約百二十平方メートルと狭く、蔵書数も一万冊未満といった小さなものですが、その代わり児童館の運営とセットで、年末・年始の休みと国民の祝日を除いてほぼ一年中図書業務ができる体制をとっていますので（貸出は月・火曜日は不可）利用者はかなり増えてきています。

これまででは、上狛小学校の空き教室を利用した簡易な図書室でしたが冷暖房が完備され、広く、明るく、きれいな図書室に生まれ変わり、図書室専門の嘱託員を配置し、児童書コーナーに畳を敷いたり、一回の貸出冊数を三冊から五冊に増やしたり、また、第二土曜日には児童館の集会所を利用して「紙しばい会」を行っ

たり、児童館事業や社会教育事業で児童館を利用される人達に読書を進めるなど、より多くの利用者を求めているような取り組みを行っています。

そして平成八年には、本町にとって長年の夢であった複合文化施設が建設されることになり、その中に蔵書数七万冊の図書館が設けられることも決まりました。

思い起こせば、京都府の巡回連絡協力車から始まった図書館活動が、上狛小学校図書館、なでしこ児童館図書室を経て、いよいよ本格的なものになるのも間近に迫り、今後の運営等で一抹の不安はあるものの、職員一同新たな気持ちで頑張る決意をしているところです。

なお、なでしこ児童館図書室も新図書館の分館として有効に利用できるように、現在検討を進めているところです。



専 門 委 員 会 ニ ュ ー ス

◎研修研究委員会より

次のとおり一泊研修を実施します。

期 日 二月二・三日
会 場 岩清水八幡宮
修センター
（八幡市）
題 目 「資料選択を中心とした日常業務の改善」
講 師 川上 博幸
（枚方市図書館）
若原真理子
（名古屋市
千種図書館）

今年度から毎年一泊研修を行うことになりました。昨年度は、「公共図書館の任務と目標」と理論を重点にした研修だったのですが、今年度は日常業務に直結するテーマをという要望にこたえての一泊研修です。

枚方市と名古屋市の図書館での取組を学び、さらに、参加各館の実情、経験を十分に交流できるようプログラムを考えました。

◎相互協力委員会より

来る二月八日、府立図書館において、相互協力委員会を開催します。

次のような議題を予定しています。

一、「WANTED」の実施状況について

「W」は実施から十ヶ月を経過しました。この間、いくつかの図書館から意見が寄せられています。今回はこうした「W」の現状と問題点について協議し、今後の方途を探ります。

二、「相互貸借実態調査」の実施状況について

前回の調査を踏まえ、相互協力活動の一層の推進を図るため、「W」実施一年の実績も加えた実態調査の実施について話し合い、また、相互協力活動全般について意見を交換します。

◎広報委員会より

十一月二十五日に府立総合資料館を会場にして第二回の会合をもち、第三十五号（本号）の編集を行いました。

久々に知名人による「私と図書館」シリーズを企画しましたが、関係者のご協力で千宗室家元の原稿をいただくことができました。

次回の広報委員会は、この一月二十七日に田辺町立図書館を会場にして、第三十六号（三月十五日発行）の編集について協議します。